

《新世界》から発信されたドヴォル
ジャークの手紙と当時のアメリカ

その

半場 久也



(カットも筆者)

アントーニン・ルス宛
て スピルヴィル 一八
九三年八月十七日

ウィンネシック会社
アイオワ州アメリカ合
衆国 『親しい友よ！

今一度私達は
《チェコの日》
と題した万国博が行われ

ているシカゴから八月十二日に戻ったところ、このお祭りのことについて、あなたに急いで手紙を書いているところで

この日、展覧会でアメリカ在住チェコ人の盛大なパレードが行われたのです。

そこでは大音楽会やソコルの大きな上演が行われたのです。(筆者註「ソコルについては、注釈がなく不明。演劇の題目か?」パレードには約三万人のチェコ人が参加し、大祝賀会場ではコンサートが行われました。(オーケストラのメンバーは百十四人)。

私が自作を指揮し、ロシアから来たウオイティエフ・フラヴァーチエ(原注「一八四九、一九二、チェコの指揮者で作曲家、ロシアに滞在していた。万博では自作を指揮)がチェコの作曲家による他の曲を指揮していました。オーケストラとその演奏は大規模なもので、非常に興奮を起こしました。

全ての英字新聞は、あなたも既に読ま

れた通りセンチシヨナルに書きました。博覧会自体が巨大で、その全てを書くことは不可能です。それは観るべきものであり、もっと良く観る必要があります。

しかし、それだからと言って何もわかりません。それはあまりにも大き過ぎるのです。確かにアメリカスタイルで出来上がっているのです。それにも拘わらず欠点は多いのです。多くのこの人間は博覧会のことでは嘆いているのです。シカゴでは特に多くの人がこまっています。

九月には、きつと十七日に私共は再びニューヨークへ戻ります。その間、少しシカゴに居ます(原注「ドヴォルジャークは再びシカゴ経由でニューヨークへ帰る。シカゴでは子供達が前回見損なったものを観ることが出来た)。九月二十五日には再び学校に戻らねばなりません。もし手紙を下さるのなら、ニューヨークの方へ直接出して下さい。というのは、もしあなたがこの手紙を受け取るとすれば、既に九月になっているでしょうし、

手紙はこのスビルヴィルの私共のところには着かないと思われるからです。烈しい暑さまで、私共はこのチエコ村で素敵な気分の良い休日を通しました。子供達はしきりにホームシックに罹っています。

私が新しいホ短調の交響曲と新しい弦楽用の四重奏曲と五重奏曲を書いたことは御存知ですね。私はこのシーズン中に全ての作品を出版したいと思っています。やっとジムロックがやってきて、再び私の全作品を出版することに同意しました。

私は彼が先ず私のところへ来るべきだと思いました。私が彼の所へではなしに。だから私は彼のことを待つことによつて彼を罰したのです。

もしそれが世に出ると、ひとつの大きな山になるでしょう。即ち三曲の序曲《ドウムキー》、一曲のロンド《休息》、一曲の交響曲、一曲の四重奏曲、一曲の五重奏曲、その他に《テ・ドウム》とコ

ーラスとオーケストラ用の《アメリカの旗》です。これについては既にノヴェロ氏が申し込んで来ました。何時彼と会うのか分かりません。

チエコの派遣団が当地に来ていたことを言つのを忘れていました。シカゴのパレードでヘリテス氏とその家族に会いました。それからシュマハ氏とも会つて、一緒にシカゴの夕べを過ごしました(原注)シカゴにチエコの一団が来ていた。

《新世界》 記念すべき初演の日決まる

作家フランティッシュェック・ヘリテス、一八五二〜一九二九とブラーハの国民劇場監督ヨセフ・シュマハ一八四八〜一九一五)。あとウルバーネク氏以外の残りのチエコ人をあまり知りません(原注)モイミール・ウルバーネク、一八七三〜一九一九、チエコの音楽出版社F・A・ウルバーネクの(長男)が、あの大都会で彼等と出会うことはありませんでした。

ボタネツキー氏と奥様に心からなる挨拶と、ヴィソカーの別荘を世話して戴いたお礼をどつからお伝え下さい。その土地は表向きはとても美しいのですが、残念なことに大変な乾燥性がとても不利益なことを引き起こしています。それはますますです。けれども、ここも同じく乾燥していて農場主は嘆いています。既に書きましたが、このスビルヴィルではチエコ人が(三十年前まで)アルブレヒテ

イーチエの近くのウシエテチエから来ていたのです。それからピーセクの近くのオストロウエクから、そしてピーセクからカピノスの家族が、彼等はすっかりアメリカ人化しています。そして私は、このおぼあちゃんと楽しくやっています。この人達は皆我々をとても羨ましがっています。私達のことを一番いいと！あなた方皆様にキスを送ります。

ピーセクの皆様によろしく！

私の新しいホ短調の交響曲が、十二月

秋季号の募集要項

締め切り 10月14日(水)

次回の発行予定日は、10月末日です。洋楽部のコンサートは11日(日)に開かれますので、その模様は掲載できますが書道展は20日~25日の日程なので間に合いません。写真展や邦楽祭と冬季号になります。

医家随想では、音楽に関する所見を歓迎します。作曲されたり作詞されたりした経験はありませんか？ もちろん、演奏経験などもどうぞ。

そのほか、俳句・短歌・川柳など。

文特号の原稿募集

12月中旬に発行します

創作、評論、随想、詩歌

内容は自由です。

仮申し込み 仮題で結構です。ジャンルや脱稿予定日、頁数(400字詰め原稿用紙3枚強で1頁)を、できれば9月10日ごろまでに事務局へ連絡を。

頁負担金 同人誌的運営なので1頁あたり2,500円ご負担願います。問い合わせは

FAX 042・344・0879へ

十五日と十六日に初演されるでしょう。指揮は、有名なワグナーの弟子アントン・ザイドルです。ニューヨークフィルハーモニー協会の監督です。』

コメント ここでは作曲家が万国博の《チエコデー》の模様を描写している。彼は招かれて、ここでシカゴ交響楽団を指揮することになり、自作のオーケストラ作品を数曲披露した。即ち《交響曲・ト短調》、(第八番)《スラブ舞曲・第一巻》、序曲《わがふるさと》である。

未だアメリカへ来てから作った作品は入っていない。恐らくニューヨークへ帰ってから、そこで初演したいと考えたのであろう。シカゴの様な地方都市は、全世界に向けて公表すべき自信作《新世界より》を初演するには向かない。これは充分納得できる。当然だと思つて…… やつとジムロックがやってきて…… ということは、彼が実際にアメリカへ出向いてきたのか、彼の手紙が到着したのか、はっきり分らないが、この前後の書簡にも会員の模様が載っていない

ので、多分手紙が来たのである。その後、豹変したようにドヴォルジャークの作品を全部出している。作曲家の実力がやつと納得できたのだ。

この書簡の中で「……もしこれが世の中に出ると、ひとつの大きな山になるでしょう。……」とあるが、これとは単数の作品ではなく、アメリカへ来て作ったもの全部を指すものと思われる。そして、いよいよ《新世界》交響曲の記念すべき初演の日が決まったことを最後に通告している。